

研究課題名	大伏在静脈グラフトの開存率に及ぼすワーファリン内服効果の検討 (後方視的患者対照研究)
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 心臓血管外科 氏名 田崎 大
研究期間	(西暦) 2010 年 4 月 ~ (西暦) 2020 年 6 月
研究の意義・目的	冠動脈バイパス術は虚血性心疾患の基本治療のひとつである。左前下行枝に対する内胸動脈を用いた血行再建は予後良好なゴールドスタンダードとして確立しているが、それ以外の枝に対して、どのグラフトによる血行再建が望ましいかについては議論の余地がある。大伏在静脈(SVG)は本邦及び世界的な使用率が高く(約80%)、採取方法あるいは術中の汎用性が高い有用なグラフトである。SVGの問題点として、他の動脈グラフトよりも長期開存率が低いことが挙げられ、SVG開存率の向上を図るために様々な報告と研究がされているものの、未だ不十分と考えられる。 ワーファリンは抗血栓薬の代表薬のひとつであり、SVG内膜損傷部位を中心とした血栓形成を抑制することで早期グラフト閉塞を予防すると考え、これまでに当院(および循環器科)で積極的に投与を行ってきた。これまで当科で施行した冠動脈バイパス術の治療成績とともに大伏在静脈グラフトの開存率に及ぼすワーファリン内服効果を検討する。
研究の方法 (対象期間含む)	当院当科で施行した単独冠動脈バイパス術症例について後方視的に検討する。 得られた結果を、生存率、SVG開存率、出血性合併症、再血行再建率について統計学的に検討し考察する。
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む) ②利用し、又は提供す る試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	① 【選定基準】当院で施行した単独冠動脈バイパス術症例 【除外基準】SVG非使用症例、早期死亡症例、SVG開存未評価症例、ワーファリン非投与症例、SVG早期閉塞症例、その他不適と判断した症例 (no-touch technique) ②論文発表・学会発表として予定している。 ③④武蔵野赤十字病院心臓血管外科医師
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 心臓血管外科 田崎 大 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525

